

## 平成22年度 第2回埼玉県地方独立行政法人評価委員会議事録

日時：平成22年11月22日（月）16:00～16:50

会場：埼玉県庁庁議室

出席者：横道委員長、井部委員、伊関委員、武田委員

県側出席者：牧野保健医療政策課長、木村保健医療政策課副課長、ほか

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 協議事項

公立大学法人埼玉県立大学の事業年度評価について

(1) 法人による業務の実績報告及び自己評価について

- ① 小項目（年度計画の項目）評価
- ② 大項目（中期目標の項目）評価
- ③ 全体評価

(2) 委員会による業務実績評価について

- ① 調査・分析
- ② 項目別（中期目標の項目）評価
- ③ 全体評価

#### 3 その他

#### 4 閉 会

---

### 1 開会

(会議の公開)

評価委員会規則第7条に基づき、会議の公開を決定した。(傍聴者なし)

### 2 協議事項

(事務局)

「公立大学法人埼玉県立大学の事業年度評価について（案）」に基づいて説明。

【質疑】

(伊関委員)

事業年度評価の評価方法の案は、他の大学法人を参考にして作成したのですか。

(保健医療政策課)

既に事業年度評価を実施している、27の大学法人の評価方法を参考にしました。

(伊関委員)

新しく民間から招いた利根理事長が、当初設定した達成目標とは別に、特徴ある取組を実施することが考えられます。当初の目標を全て達成して、満点を取ったとしても、それで良い大学になったとは言い切れないと思います。実際に評価するときは、理事長が進めた新しい取組を踏まえて評価しなければならないと思います。

その限界はありますが、目安としての基準は必要だろうと思います。

(横道委員長)

評価のスケジュールについて確認させてください。

(保健医療政策課)

法人が業務実績報告書を作成し、来年6月末までに評価委員会に提出いたします。その後、来年8月に業務実績評価書を作成していただき、法人に通知するとともに、県に報告いただき、9月議会に提出する予定です。

(井部委員)

先程の伊関委員の御発言は、新理事長のもと、もっと個性的に事業を行ったらどうか、ということでしょうか。

(伊関委員)

新理事長が打ち出す特色ある取組に対しては、きちんと評価するべきという趣旨です。上田知事は、法人化の目玉として、利根理事長に就任を依頼されたと思いますので、理事長の特色が何らかの形で示されることと期待しています。

(井部委員)

それらは、ある程度、年度計画の範囲の中で示されているのではないのでしょうか。

(伊関委員)

理事長が決まっていない時期から中期計画の策定が始まっていたため、中期計画に利根理事長の意向が全て入っているとは言えないと思います。今の時代では、大学は変化を求められています。それらの変化を多面的に評価すべきです。一方で、大学という組織は、個人の意向が傑出すると逆効果になることもありますので、行き過ぎたところは指摘しなければならないこともあるかと思います。

(横道委員長)

評価委員会による大項目の評価について、5から1の段階評価を行う基準は、あくまで原則であることを明示していただきたいと思います。講評や全体評価を記述式にすることは了承しました。既にある中期目標や中期計画の達成状況をチェックしていただいた上で

記述し、提出していただきたいと思います。

(保健医療政策課)

法人が評価委員会に提出する業務実績報告書のうち、小項目（年度計画の項目）では、淡々と事実を自己評価していただきます。一方、大項目（中期目標の項目）ごとの評価や全体評価については記述式にしております。ここに、理事長の意向のもと実施した事業の成果を記述してもらい、それを委員会で評価していただければありがたいと思っております。

なお、法人が作成した年度計画は、中期計画に基づいて作成しております。従いまして、理事長の方針についても年度計画に反映されております。

(伊関委員)

ところで、職員の先生方は、生き生きと教育研究活動をされているでしょうか。

(保健医療政策課)

県の機関であった時と比べて資金の融通が利くようになったため、積極的に教育研究活動をなされているようです。

(伊関委員)

法人に伝えていただきたいのですが、事業を実施してどこが変わったのかということを中心に記述していただきたいと思います。特に、教職員の意識、やる気がどう変わったのかを記述していただきたいと思います。

また、評価疲れしないように、ポイントを押さえた評価をすべきと考えます。評価のために余計な手間を掛けることは逆にマイナスになりますから、評価のための評価をしないように注意していただきたいと思います。

(武田委員)

項目別評価の大項目評価に「原則として」と盛り込んでいただきたいと思います。評価の目安として9割以上9割未満の基準とありますが、9割未満であっても良い仕事をしている場合もあります。

(保健医療政策課)

個別の具体例によって、判断は異なってくると思います。ニュートラルな形で評価していただければと思います。

(伊関委員)

9割ぐらいは最低限達成してもらいたいという目安でしょう。例えば、就職率の目標については、昨今、福祉系の民間企業への就職が厳しいため、達成できない場合もあり得ると思います。場合によっては8割5分でも達成とみなして良いと思います。

(武田委員)

社会全体の就職状況が極端に悪い場合は割り引いて考えることも必要だと思いますので、目標達成の評価基準は「原則」と入れた方が良いでしょう。

(横道委員長)

ありがとうございました。それでは、業務実績評価については、各委員御指摘の修正を踏まえ、ご承認いただきたいと思いますが、如何でしょうか。

(各委員了承)

(横道委員長)

その他、なにかございますか。

法人化して半年経ちましたが、大学の現状はどうですか。

(保健医療政策課)

中期目標の一つに県内就職率60%以上というものがあります。法人では、就職対策の強化として、今年7月1日、県内民間企業で人事関係等を担当されていた方を就職アドバイザーとして雇用しました。

また、産学連携の強化のため、今年5月1日、同じくこれも県内の金融機関で産学連携に精通していたOBの方を産学連携アドバイザーとして招きました。

さらに、利根理事長のもと、県内の6つの金融機関と産学連携に関する覚書を結んだほか、イノベーション・ジャパン2010という大学の研究成果の発表の場に初めて出展した、などの取組を行っています。

(横道委員長)

ひとつ心配なのは、達成目標にある就職状況ですね。

(伊関委員)

昨今の大学就職率は非常に悪い状況です。就職が厳しい現在だからこそ、高い就職率であれば、大学のPRになります。

(横道委員長)

伊関委員、昨今の就職状況について教えてください。

(伊関委員)

積極的な学生でないと就職は厳しい状況ですので、私の場合は個別に指導しています。適切な就職支援ができれば大学のPRになりますので、大学には頑張っていたきたいと思います。

埼玉の場合、これから団塊の世代が後期高齢化していく中、医療・介護ニーズが爆発的に増えることが予想されます。埼玉県はもちろんですが、この対策を大学としても展開していくことが必要であると考えます。

人材育成や様々な政策展開に必要な時間を考えると、あと4～5年しか猶予がありません。将来、爆発的に増加する高齢者人口の対策のため、県立大学は非常に重要な役割を担っていると思います。利根理事長が就任したこともありますので、短期的な事業とともに、長期的な展望のもと事業を展開していただきたいと思います。

県立大学の存在価値はそこにあると思います。

(横道委員長)

保健や福祉の分野では市町村の役割が大きいため、コーディネートする機能が県立大学に必要だと思います。

(伊関委員)

在宅の高齢者が増加しますので、それらを見据えての人材育成や政策立案について、行政と大学が一体となって進める必要があると思います。

(横道委員長)

医療・福祉のニーズは、高齢者の増加と比例関係にありますので、将来像を見据えて検討すべきだと思います。

(伊関委員)

県立大学には、県のシンクタンクとしての機能も必要になると考えていますので、そこを充実していく必要があると感じています。

(井部委員)

東京や埼玉などの首都圏は、急速な高齢化に十分に対応できてないため、今後問題になるだろうと思います。

(横道委員長)

団塊の世代が15年後に後期高齢者になりますので、その時が問題なのです。

(伊関委員)

現在約年間110万人の死亡者が、将来約160万人に増加します。今は地方の高齢者が中心ですが、将来は埼玉などの首都圏において、高齢者の大量の看取りが必要になります。当然、介護も必要です。

(横道委員長)

高齢者が増加すれば病院がパンクしてしまうため、多くの病院に入れられない方々が生じる恐れがあります。病院に入れられない方々をどのように在宅医療で持たせるかという課題があります。

(伊関委員)

日本で一番急速に高齢化が進む埼玉県だからこそ、埼玉県立大学に、最先端の優秀な人間が集まって研究と実践が行われるような環境を整えることが必要と考えます。

埼玉県は、そのために十分な投資してもいいと思います。超高齢社会を見据え、重要な役割を担う大学だと改めて感じています。

終了